

十勝の金融経済概況

1. 全体感

十勝の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から、厳しい状態にある。

すなわち、公共投資は、高めの水準で推移している。設備投資は、高水準で推移している。住宅投資は、減少している。個人消費は、減少している。生産は、持ち直している。雇用情勢をみると、労働需給は全体として引き締まった状態にあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響がみられ始めている。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症が管内の経済活動全般に及ぼす影響などを注視していく必要がある。

2. 最終需要の動向

公共投資は、高めの水準で推移している。

4月の公共工事請負金額は、3か月振りに前年を下回った。

設備投資は、高水準で推移している。

主要企業の設備投資計画をみると、19年度は前年を下回る計画となっている一方、20年度は前年を上回る計画となっている。

3月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年を下回った。

住宅投資は、減少している。

3月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家ともに前年を下回り、全体でも前年を下回った。

個人消費は、減少している。

3月の主要小売店の売上高は、食料品が堅調であった一方、衣料品、身の回り品が前年を下回り、全体では前年を下回った。

耐久消費財をみると、自動車販売（乗用車新車登録届出台数、4月）は、普通・小型乗用車、軽乗用車ともに前年を下回り、全体でも7か月連続で前年を下回った。3月の家電販売は、来店客数の減少を背景に、総じて低調に推移した。

旅行・観光関連をみると、3月の市内ホテルの宿泊人数および主要温泉地の宿泊人数は、新型コロナウイルス感染症の影響による入り込みの減少を主因に、前年を大幅に下回った。また、3月のとちぎ帯広空港の乗降客数も、同感染症の影響による減便に加え、悪天候による欠航便の発生から、前年を大幅に下回った。

3. 生産・雇用・企業倒産の動向

生産は、持ち直している。

3月の生乳生産量は、18か月連続で前年を上回ったほか、3月の乳製品生産量も、生乳生産量の増加を背景に7か月連続で前年を上回った。農作物の生育状況（5月15日現在）をみると、各作物とも概ね平年並みで推移している。

一方、3月の製材品生産量は、前年を下回った。

雇用情勢をみると、労働需給は全体として引き締まった状態にあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響がみられ始めている。

3月の有効求人倍率（常用）は、25か月振りに前年を下回った。

企業倒産は、総じて低水準で推移している。

4月の企業倒産（負債額10百万円以上）は、倒産件数、負債総額ともに前年を上回った。

4. 金融情勢

帯広市内金融機関の実質預金残高（3月末）は、流動性預金を中心に増加している。

貸出残高（3月末）は、前年を上回った。

貸出約定平均金利（3月末、総合）は、銀行、信金ともに前月を下回った。

以 上